



教授の呟き

第58回

人材育成に欠けているものは？

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

●●● 教育における厳しさ

その昔、小学校の父親参観に出かけたときのことである。そこには、かわいくあどけない分だけ、わがままで身勝手な子供たちがいた。同情のあまりか、ある父親が担任の先生に「大変さがよく分かりました。ご遠慮なく、厳しくしつけてください」と懇談会でお願いしていた。

2005年の7月から9月にかけて、「女王の教室」（主演・天海祐希）というテレビドラマが放映された。「自分たち教師が“壁”となって立ち上がり、それを乗り越えようとする努力をさせない限り、子供たちは“真の壁”を乗り越えることはできない」という主張。「ゆとり教育からの脱皮」という、かすかな追い風もあったが、「子供が主役、子供には優しく」という現代の風潮もあって、激しい批判にさらされたようだ。

●●● 研究における厳しさ

研究においても、似たような話がある。

酒席で若い大学教師が、『「厳しさ」と「優しさ」は、概念が違いますよね。『厳しい』の反対語は『甘い』で、『優しい』の反対語は『冷たい』ですよ』と、ふと漏らした。

「研究が甘い」といえば、厳密や正確でないという意味も含めて、あまり良い響きではない。「研究に厳しい」となれば、前提条件や仮定が厳密で、

結果に対しても責任を取るという意味で当然だろう。律儀で厳格という点では、研究者の必須条件でもある。

面倒見の良い彼は、「研究の厳しさを教える優しさ」と「放任して甘い研究をさせる冷たさ」を区別できない学生たちに、困惑しているようだった。

●●● パターナリズム

そんなとき、新聞の論説が目にとまった。

「医師と教師は、かつて聖職などとも呼ばれ、高度な倫理観と価値判断が期待される専門家集団だった。その専門性ゆえのパターナリズム^(注)が批判されはじめてから、医師たたき、教師たたきが激しくなった」「患者のため、生徒のためから、マスコミ対策、訴訟対策という方向に変わっている」⁽¹⁾

教師に完璧な人格と完全な教育サービスを期待するあまり、小さなミスも大きな夢も許さない雰囲気があるのかもしれない。また目先の教育成果だけが求められるあまり、解き方や解答の見つけ方を教えることが主流となり、晩成するであろう大器を育（はぐく）むことは忘れがちかもしれない。

●●● 育む人の共通点

会社に入ったとき、いきなり上司に呼びつけられ、「20代は30年後、30代は20年後、40代は10年後を考えて

仕事に励むように」と諭された。「これから仕事を教えてもらおうと思っていた矢先に、将来の精神訓話とは…」と驚いたが、いまでは仕事の中身よりも、言葉の方が心に残っている。

振り返ってみれば、多くの「厳しくかつ優しい」教師や上司に恵まれた。彼らの共通点は、「目先にとらわれずに、到達可能な目標設定とそこへの道筋を考えさせること」、「そのときに嫌われても将来感謝されること」だったように思う。⁽²⁾



●●● ロジスティクスの人材育成は？

最近、ロジスティクスの人材育成が話題になっている。筆者もいくつかお手伝いしているが、ロジスティクス教育のカリキュラムづくりが定番である。それゆえ「ロジスティクス管理とは…」「SCM（サプライチェーン・マネジメント）のなかで重要なのは…」など、ハウツーものが多くなりがちである。

もちろん、このようにテクニカルな方法論を教えることも重要である。しかし一方では、ロジスティクスを考えるとときの心構え、個人の動機付けや目標設定なども人材育成には不可欠なはずである。

仮に「物流部門に左遷された」と思っている社員がいたとしたら、どのように育めばよいのだろうか。こんなときには、専門家の講義やテクニカルな知識の詰め込みよりも、むしろ社内の上司や仲間とのコミュニ

ケーションの方が大切だろう。明るい将来を思い描くことができたら、きっと解決に近づくに違いない。

ロジスティクスの人材について、あえて「教育」と言わずに「育成」というのであれば、「育むこと」に力点があっても良いはずだ。なにも上司が部下の壁になるべきとまでは思

わないが、迎合することなく「厳しい優しさ」を見せてほしいと思う。



(注) パターナリズム (paternalism)

強い立場の者が弱い立場の者に対して、後者の利益になるとして、その意志に反しても行動に干渉すること。教育には必要なことも多いが、一方で個人の自由や権利の制限を正当化することもある。

(1) 斉藤環、時代の風「医療崩壊」の行き着く先」、毎日新聞、2007年7月22日朝刊

(2) 日刊スポーツ、2007年8月29日

Profile

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)、「都市の物流マネジメント」(勁草書房) <http://www.2.kaiyodai.ac.jp/kuse/>